

全員そろって庄巻の記念撮影。この写真は  
紙面を飾った(撮影・大分合同新聞社)



関東同窓会創立30周年を盛大に祝う

## 総会・懇親会を挙行!!

(文・和田典久(昭和60年卒))  
早くも梅雨明けを思わせるかのような初夏の日差しが眩しい平成28年7月2日(土)、第30回竹田高等学校関東同窓会総会がホテルグランドヒル市ヶ谷にて盛大に開催されました。  
今年は第30回の節目の同窓会であり、また間近に迫ったりオ五輪のお祭りムードの相乗効果もあってか、総勢264名という多数の同窓生にご参加いただきました。  
総会はこの1年にお亡くなりになった物故者への黙祷、司会の井手幹事長による開会宣言によりスタートしました。  
まずは松良関東同窓会会長よりあいさつがございました。  
「昭和25年に竹田会が発足、昭和63年に関東同窓会として独立、諸先輩方のご指導のもと、今年で30周年を迎えることができました。  
また今回は30周年の記念の会として、多くの方に参加いた

大分県立竹田高等学校  
関東同窓会報  
第52号

発行者・会長 松良修二  
編集者・委員長 衛藤 淳  
発行所・関東同窓会事務局  
〒194-0013  
東京都町田市原町田4-17-20  
電話 042-725-5018

<http://www.geocities.jp/kantohtaketa/>



竹田高校・後藤校長

き盛大な会となるよう、全員野球で頑張ってきました。今回特筆すべき点は、執行部及び当番幹事が一致団結し連携できたことで、このように多数の同窓生にご参加いただけたものと感謝しております。  
最後になりますが、昨年開設した寄贈文庫『大志文庫』の推進等、今後も関東同窓会は母校との交流を深めて参りたいと考えております。  
次に総会次第に沿って、会計監査報告及びこの1年間の関東同窓会の様々な活動報告がございました。  
そして多数ご出席いただいたご来賓の中から、後藤輝美校長、首藤勝次竹田市長、後藤眞二同窓会会長よりごあいさつをいただきました。  
後藤校長からは「本会への現役大学生のご招待、また修学旅



関東同窓会・松良会長



竹田市・首藤市長

行での企業訪問や『大志文庫』の開設等、関東同窓会の日頃からのご支援ありがとうございます。今日は2点お話しします。  
1点目は進学や部活動の状況ですが、難関大学への複数合格や山岳部の27回連続インターハイ出場等、竹田高校は黄金期を迎えているということです。2点目は、地域の高校は生き残りをかけた状況にあり、竹田高校は生き残りの中で一番厳しい状況にあります。地域と連携し小中学校や地域の皆様、行政にもお力をいただき、『竹田高校は永遠に不滅です』と次年度に宣言できますようご支援(エール)をいただけますようお願いいたします。」とごあいさつがございました。  
首藤市長からは「4月の熊本大分震災での竹田の被害はそう大きくはなかったものの、風評被害によるキャンセルがあり3億円を超える実被害があります。ただし7月に災害復興を目的とした旅行クーポンが発行されます。観光客回復に向けた政府の対策であり、熊本大分では7割補助となります。この

桐朋学園芸術短期大学の卒業生が結成した「パフォーマンス集団・たまご」と「シュピール×シュピール音楽劇ファクトリー」によって制作された音楽劇『瀧廉太郎物語』



## 感動の記念イベント

# 音楽劇『瀧廉太郎物語』

クーポンによる経済効果がきつと竹田を元気づけてくれると信じております。」と復興に向けた力強いお言葉をいただきました。

後藤同窓会会長からは「竹田高校は2017年に創立120周年を迎えます。1897年開校以来、明治・大正・昭和・平成と豊肥地区の最高学府として26,000人余りの卒業生を輩出してまいりました。同窓会



竹田高校同窓会・後藤会長

としてもこれだけ素晴らしい高貴ある歴史と伝統を持つ竹田高校を更なる新しい竹田高校の歴史・伝統づくりに120周年事業を大いに力としていきたいと

今回の同窓会で実際に上演された音楽劇「瀧廉太郎物語」。あえて詳細な上演内容は記載しませんが、あ

決定してからは記念イベントということで懇親会での上演可能時間の40分版に新たにリメイクしていただきました。

決定してからは記念イベントということで懇親会での上演可能時間の40分版に新たにリメイクしていただきました。

決定してからは記念イベントということで懇親会での上演可能時間の40分版に新たにリメイクしていただきました。

決定してからは記念イベントということで懇親会での上演可能時間の40分版に新たにリメイクしていただきました。

決定してからは記念イベントということで懇親会での上演可能時間の40分版に新たにリメイクしていただきました。

30周年の記念になるもの、竹田に関係あるもの、母校の生徒にも還元できるもの等、いろいろな観点から様々なイベント提案がございました。

何度目かのミーティングの際、執行部役員より以前竹田会で上演された音楽劇に非常に感動したとの、本当にちよつとした世間話がありました。ところが音楽劇の制作に関わる桐朋学園芸術短期大学に当番幹事のメンバーが奇遇にも勤務しており、出演交渉等もスムーズに進み、あれよあれよという間に音楽劇「瀧廉太郎物語」が今回の記念イベントに決定しました。

今回の同窓会の記念イベントである音楽劇「瀧廉太郎物語」。前年9月から始めた当番幹事ミーティングでも記念イベントの演目選定は一番の悩みの種でした。

総会開始から約1時間、出席者の喉は乾ききった状態でした。

総会開始から約1時間、出席者の喉は乾ききった状態でした。

総会開始から約1時間、出席者の喉は乾ききった状態でした。

総会開始から約1時間、出席者の喉は乾ききった状態でした。

総会開始から約1時間、出席者の喉は乾ききった状態でした。

総会開始から約1時間、出席者の喉は乾ききった状態でした。

総会開始から約1時間、出席者の喉は乾ききった状態でした。

総会開始から約1時間、出席者の喉は乾ききった状態でした。

総会開始から約1時間、出席者の喉は乾ききった状態でした。



監修の松井康司教授と演出の柴田千絵里さん

また来年は普通の出席者として楽しい同窓会に参加できることを楽しみにしております。

また来年は普通の出席者として楽しい同窓会に参加できることを楽しみにしております。

また来年は普通の出席者として楽しい同窓会に参加できることを楽しみにしております。

また来年は普通の出席者として楽しい同窓会に参加できることを楽しみにしております。

また来年は普通の出席者として楽しい同窓会に参加できることを楽しみにしております。

また来年は普通の出席者として楽しい同窓会に参加できることを楽しみにしております。

また来年は普通の出席者として楽しい同窓会に参加できることを楽しみにしております。

また来年は普通の出席者として楽しい同窓会に参加できることを楽しみにしております。

また来年は普通の出席者として楽しい同窓会に参加できることを楽しみにしております。





# 30周年懇親会アルバム

写真撮影：後藤 洋一(昭60年卒)、眞部 洋一(昭60年卒)、瀧 雅美(昭50年卒)



▲乾杯のご発声は初代会長の長吉泉相談役



▲司会は当番幹事を代表して牧野浩志さんと白坂亜紀さん(共に昭60年卒)



▶今年はいよいよことに在京の現役大学生が4名参加してくださり、壇上であいさつしてく



監修▶松井康司教授(桐朋学園芸術短期大学)  
 作・演出▶柴田千絵里  
 出演▶一平杏子 川越美樹 柴田友樹 中井沙織 長尾俊彦  
 平井千尋 福島 梓 坂本明佳(歌) 藤原伊央里(ピアノ)  
 協力▶桐朋学園芸術短期大学、シュビール×シュビール音楽劇ファクトリー  
 パフォーマンス集団・たまご [HP] <http://tamago-land.jimdo.com>

▶竹田から特別にドローン撮影した故郷の映像が送られてきて上映。在校生によるグラウンドでの「祝30周年」の文字に会場では「ワッツ!!」と歓声が上がった(ドローン撮影：北條誠一氏 昭52年卒)



▲現役大学生を含む卒業年次が平成のメンバー。関東同窓会の未来を担っている



▲熊本大分地震の支援のために急ぎょ用意された寄付金箱が代表から首藤市長に託された



▲来年2017年懇親会の当番幹事の昭51年卒のみなさんがあいさつ。こうして伝統が連綿と受け継がれていく



▲お約束の全員ストームで締めくくり。この一体感は格別!!





# 竹田高校関東同窓会が 竹田市より功労表彰!!

## 平成28年度 竹田市功労者表彰式 出席報告

会長 松良 修二（昭34年卒）

この度、首藤竹田市長及び吉野教育長から竹田高校関東同窓会を平成28年度竹田市及び竹田市教育委員会の功労者として表彰する旨の通知をいただき、11月3日に開催された表彰式に出席いたしました。市長表彰は個人13名（地域商工業や農業の振興、人権擁護、環境保全、住民の健康増進などへ貢献）及び3団体（竹高関東同窓会、竹田南高校、城原地区活性化協議会）、教育委員長表彰は個人4名（無形文化財やスポーツ振興への貢献）及び神楽保存会に対し行われ、更に、市長感謝状が文化交流や市街地振興に対し4名の



方々に贈呈されました。

関東同窓会の受賞事由は「ふるさとである竹田市の応援や、関東圏への情報発信など、市の文化・観光振興に貢献」というものでした。

思いがけない受賞でしたが、これは偏に関東同窓会会員の皆様全員の不断の活動によるものと思料いたします。これまでに賜りました皆様のご尽力に心よりお礼申し上げます。

## クラス会・同期会

### 屋久島登山

羽田野 耕一（昭46年卒）



（左から）羽田野耕一さん、久枝恭一さん、広瀬秀樹さん

昭46年卒生は関東同窓会で最初に当番幹事を担当した平成14年以降、毎年何回か集まり親睦会や旅行などのイベントを企画してきました。

昨年は久住登山と竹田懇親会に14名が集まりました。今年は屋久島登山を企画して、関東と竹田から計7名が参加予定でしたが、台風や諸般の事情により女性4名が不参加となり、男性3名のみで9月17日から2泊3日で縄文杉を観てきました。

微妙に台風を避けながら早朝4時半ホテル発、バスで登山口まで行き、トロコ道を通り、午後5時下山のハードな日帰りコースで樹齢二〇〇年以上の翁杉、ウィルソン株、大王杉、

夫婦杉、縄文杉などに圧倒されました。屋久島は一年の半分が雨ですが当日は奇跡的な晴天に恵まれ登山道も賑やかでした。還暦を過ぎて体力的にも登山は厳しくなりましたので、来年は別企画にしたいと考えています。



## 昭41年卒が「卒業50周年記念同級会」を盛大に開催

白井 幸光  
（昭41年卒・竹田市在住）

11月4日～5日に久住高原荘において私たち昭和41年卒生が卒業50周年を記念して同級会を



伊藤誠至実行委員長があいさつ



◀後藤眞二同窓会長から母校の近況報告



「久住高原たくみ太鼓」会の演奏。同会は平成10年に結成され、久住に伝わる伝統太鼓を復活させた

開催しました。集まったその数なんと91名！ 恩師・森清三郎先生に同窓会・後藤会長と合わせて計93名で文字通り盛大に行われました。ご覧のように「久住高原たくみ太鼓会」の演奏もあり大変盛り上がりしました。懇親会の翌日はゴルフ・コンペに10名、久住山登山に12名が参加しました。まだまだ若い若い!! 時間のたつのも忘れて高校生のように楽しいひと時を過ごしました。



司会を務めた白井幸光さんと磯部治子さん。よ〜くご覧ください。コスプレではありません。二人そろって母校の制服姿です



## 関西 同窓会

# 再出発の集い開催

竹田高校関西同窓会が平成28年9月10日、30数年ぶりに大阪第一ホテル6階のモナークにて開催されました。

はじめに全員で竹田高校校歌斉唱、続いて関西同窓会首藤英利副会長の開会宣言の後、本田健三会長からあいさつがありました。本田会長は会の開催を祝うとともに、「この会の活動は母校に対する思いと、会員同士

が年代を超えて親交を深める場であり会の継続を！」と誓いました。

竹田高校同窓会後藤眞二会長は全国同窓会活動と竹田高校創立120周年行事について、竹田高校後藤輝美校長は生徒数の減少に歯止めがかからず、今年竹田市の新生児が100名しかないことと、母校の近況を報告されました。引き続き竹田



本田健三会長(昭41年卒)

高校生徒によるベトナム研修旅行の発表と、書道部によるパフォーマンスが行われ、竹田高校関西同窓会の規約を審議後、廣瀬明さん(昭27年卒)の乾杯で懇親会が開宴となりました。

10月1日、竹田高校関西同窓会の今回の反省会を開き、次期開催を2017年9月23日とし全員で協力を誓いました。

竹田高校関西同窓会再出発開催に当たり、同窓会本部、関東・東海同窓会の方々のご指導に深く感謝申し上げます。



書道部員によるパフォーマンス

## 熊本大分地震の被害について

川口晃生(昭40年卒・竹田市在住)

この度の地震で被災された方に心からお見舞い申し上げます。

竹田は14日の地震では揺れはしたが物的被害は無かった。16日の地震では、市役所内に災害対策本部が設置され即15箇所の避難所に大勢が避難(人数確認は出来ていない)、道の駅、さくら・竹田共満杯に成り自宅周辺で車中泊する避難生活を送ることとなった。(28日迄)

又、貯水場の水が濁り竹田・長湯地区では2日間給水に頼る不便な生活を強いられた。

何が怖いと言え、夜間の強い揺れで安心して家の中に居られない。寝てられないことの辛さは経験してみないとわからない。3日間疲労の局地に達した。強い揺れを懸念し岡城址登



竹田市挾田の「国天然記念物阿蘇火砕流堆積物」の崖が9月に崩落していたことが確認され大きなニュースになった。度重なる地震の影響を指摘する声が多い



崩落前の写真=共に北條誠一氏(昭52年卒・竹田市在住)撮影

城禁止、歴史資料館・旧竹田荘の拝観中止、久住大船・祖母傾山の山開き祭の中止等、史跡拝観・イベントの中止が相次ぎ、市全体が自粛ムードであった。

一方阿蘇地区の報道基地として市内のホテルに全国紙・NHKが宿泊し朝夕タクシーの異常な出入りが見られた。(GW迄)

GW明けに顕著になったのが観光客が激減したこと。南阿蘇地区の崩落で熊本からの進入路がとざされ、黒川・湯布院の周遊観光路が成立しなくなると危惧しています。風評で基人数が減少している中で東京に居る皆さんが身近な処から大分竹田の旅を呼びかけていただける事を望みます。竹田市民歓迎いたします。



## ふるさと名所紀行

老舗探訪 その4

## 但馬屋老舗

但馬屋老舗 板井 良助（竹田高校 昭和42年卒）

## 但馬屋の歴史

## 「暖簾とともに」 創業200年記念誌より

老舗探訪も佳境に差し掛かってきました。4回目は但馬屋老舗さんです。

但馬屋の創業は文化元年（西

暦1804年）にさかのぼります。

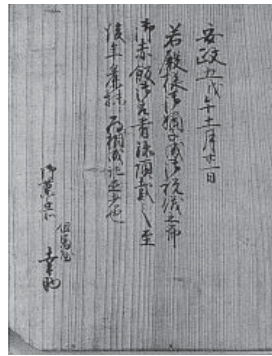
初代但馬屋幸助が京都伏見の駿河屋の和菓子職人として勤めていたところ、縁あって岡藩に

す。以来明治維新、廃藩置県、西南の役、太平洋戦争と続く激動の時代を潜り抜け、苦渋の中断はあったものの菓子業一筋に専念してこられたのは奇跡のようには思えます。その時代、時代に支えていただいた方たち、苦難に耐え転業せずに家業を伝えた先祖に感謝しています。

初代幸助は但馬の国、但馬県朝来郡（現朝来市）の瀧野佐兵衛（屋号は米屋、米穀商で大店であったことが長栄寺様に寄進された鐘から想像できます）の六男として出生。当時彼の地から由緒ある京都伏見の駿河屋

（秀吉の伏見での茶会に登用され、日本の練羊羹を創製した名店）に奉公することは、よほどのご縁に恵まれたこととお寺のご住職は言われます。ある日駿河屋の当主が有馬温泉に投宿した際に、岡藩の士族福永某氏と出会い和菓子職人を岡藩城下に誘致したいと申し出があったといわれています。

当時は砂糖は大変な貴重品で、長崎の出島にオランダ船が着くと、大半は江戸城の大奥の御用に陸路運ば



安政五年、城主中川久昭公から賜った際のお膳の覚え書き

れ、その他は長崎街道の小倉から海路で大阪の市場で高価取引されました。薩摩藩の専売品であった国内生産

の砂糖は、その技術が他藩にも広がり、全国の大名たちが城下に職人を集め京都や江戸の和菓子を作り、茶会を盛んにいたします。全国の地方都市に文化文政時代創業の和菓子の老舗が多いのは、そういう時代背景がありました。ちょうどその時期に但馬屋幸助は重なります。当時の暖簾には「御練羊羹司」と大書されています。

「三笠野」は藩主の奈良春日大社の名物「火打焼」体験から命を受けて創製しました。幕末の臼杵藩の奥日記に岡藩使者の土産として、紀州徳川家の藩校長の妻の「川合小梅日記」に病氣見舞いに使われたと記録があります。和歌山は岡藩小河家のご縁があります。

創業以前の資料に上町に但馬屋の記載があります。但馬屋では西南の役で焼失したものが多く前記の板井右太郎の屋号や商いの内容が判明していません。旧家の資料に但馬屋との養子縁組の記録もありますが、初代幸助との関連は解明されていません。

二代目幸助に子供がなく養子は古町菱屋から縁をいただき、養女には秘話が残されています。ある日の夜明け前、店の門



防空演習のあとで

先に生後間もない幼女が綾の布とお福に包まれて置かれていました。傍には見事な装飾をされた懐刀と娘の成長を祈るかのような精巧な幼女の人形が添えられていたと。このことは殿町の北条家の伝聞にも合致しています。今年90歳になる叔母は戦前まで品々が大事に保存され、小刀は戦後アメリカの進駐軍にその他の刀剣類とともに供出されたといえます。

この三代目幸助夫婦は廃藩置県で城主武家階級の顧客を失い、西南の役の戦乱に店、家屋財産を焼失（持ち出せたのはお位牌や暖簾、田能村竹田の「三笠野」の版木等）した苦難を潜り抜け、焼け跡に明治10年12月に再建されたのが現在の本店です。木材や大工の不足する中、一部に壁雲寺様の木材をいただき天井板に、指物大工の手によって造られたと普請帳に伝えられています。家業は徐々に盛んに安定期を迎えます。明治35



旧店舗の写真（昭和39年の改装～平成21年8月以前の本店と創業時の暖簾）



板井良助社長と京都・東京で修業中の次男靖良さん(平19年卒)、ひとみ夫人(昭49年卒)

年帝国製菓競進会、全国菓子品評会での「鶴の巣籠」「三笠野」「紅羊羹」等の表彰状が多く残ります。

四代目幸助は、小学校で朝倉文夫と同級で上級生に瀧廉太郎や佐久間竹浦がいました。戸畑の明治専門学校への入学を断念し家業を継ぎます。軍国主義が色濃くなる中で、日露戦争の傷病兵のために栄養価の高い「千歳木」を創製し小倉の陸軍病院に届けます。

父大助は五代目になります。私の後継が遅れ襲名せずに54歳で亡くなりました。太平洋戦争時には休業止む無く、大分の航空敵に通う以外は竹田を離れることなく家業を継ぎました。22年正月に復活。49歳で病に倒れるまでに、消防団や地域のお世話に奔走していました。離れ(現茶室)では商工会議所の設立準備等の会合や、趣味の謡曲や邦楽、野球仲間が集まり酒宴を楽しんでもいました。江戸時代から田楽火鉢や「猿猴」と呼

ばれる酒杯を載せて差し出す板状の道具があり、短歌や俳句をしたため四君子を添えて観賞し合う、竹田の食文化の粋と思われる。東の間の平和は文化の苗床のようです。

六代目の私は平和で経済成長の著しい時代に生まれ、先代の死後、母、叔母、姉のおかげで大学を卒業し菓子専門学校や菓子店で学ぶことができました。その間関東以西の和菓子屋を観て廻り、城下町の文化の中に育まれた和菓子の歴史と役割を認識することができました。竹田の茶の湯や能楽に代表される和の伝統文化の環境に育まれ、感謝の毎日です。

お陰様で、厳しい審査やご推薦をいただき厚生労働大臣、農林水産大臣、大分県知事表彰等をいただきました。全国和菓子協会の末席の副会長や県芸術文化振興財団理事として誠に微力ですがその方面の発展に協力させていたいています。会社は姉、妻と嫁いだ娘二人が就き、次男が虎屋様にて修業させていただいています。「守破離」。次世代は大分、竹田が世界に開かれ誇れるように和の文化で努力したいと思っています。なお「三笠野」「荒城の月」は経産省クールジャパン商品に認定され、今年1年間(瀧記念館と)本店に立ち寄る予定でした(クルーズトレイン)【ななつ星】の



## 同窓生紹介



### 旅と私 (廉太郎との出会い)

昭和46年卒・保坂 斎子さん

若い頃から旅が好きで写真も好きな私でしたが、仕事柄なかなか休みが取れず、1年に数日間、休みをいただき竹田で一人暮らしをしている母の家に帰るのが精一杯でした。

今から7年ほど前のある時、銀座で旅行業を営んでいる竹田高校の河野吉光先輩(昭42年卒)から声をかけられ、初めて彩麗会写真撮影の旅に参加。

第1回目はアフリカのモロッコでした。未知の国アフリカ・サハラ砂漠。世界遺産の町や村など撮影しながら移動しました。デジタルではありますが一眼レフカメラを初めて持つ私でしたので、しっかりカメラ指導が欲しかったのですが、同行しているプロのカメラマンには「電気屋のカメラは良く分からんからなー」とパナソニックのルミックスを持つ私にそんな言葉を投げかけてくる始末でした。

しかし、そんな事はそっちのけでシャッターを押し続け、真冬のサハラ砂漠の夜明けなど素晴らしい写真が撮れました。これが病みつきとなり、毎年のように写真撮影の旅に参加する事になったのです。

その後も、フランス、オーストリア、ポルトガル、ポーランド、そして昨年の撮影旅はドイツとチェコでした。

この旅をプランニングしている先輩の粋な計らいで、ライプツィヒ音楽演劇大学の近く旧市街地にひっそりと佇む

車内)で提供されています。

最後に、関東同窓会にて、初代高宮会長のもと情熱あふれる「26会」の大先輩と「竹田の観光を考える会」共催でシンポジウムを開催させていただいたこと。佐藤会長のもと創立20周年の際に竹田高校器楽部をお招きいただき、校長保護者会が共鳴し、部員全員に貴重な感動体験をさせていただいたこと。関係者に心より感謝申し上げます。

故郷をともし愛する竹田高校関東同窓会の皆さまのご健勝を心よりお祈りいたします。



碑文には日本語で次のように記されている。(隣はケール・クラウディアさん)「日本で敬愛されている作曲家、滝廉太郎(1879-1903)は1901年から1902年の間、フェルディナンド・ローデ通り7番に住み、ライプツィヒ音楽院で学んだ。短い生涯の中で数々の名曲を残し、日本の近代音楽の扉を開いた業績は永遠に輝き続ける。」

滝廉太郎碑を訪ねることができ、この碑を囲んで記念写真を撮る事になりました。

ボランティアで現地ガイドをしていただいたケール・クラウディアさんは、早稲田大学卒業後、竹田市に国際交流で3年間程住んでいた方でした。竹田との係わりが意外なところでわかり、改めて感慨深い心に残る旅となりました。今後もこの撮影旅は身体が動く間は続けたいと思っています。

(追記) 毎年作品展も行っていますので是非ご覧になっていただけると励みになります。



保坂斎子さん(後列左から4人目)と河野吉光さん(後列左端)



## ♪予告 来2017年の総会

古澤剛熱唱ライブ  
IN 31回関東同窓会 が決定!

(2017年当番幹事 飯田 良典・昭51年卒)

今年の創立30周年記念総会の音楽劇も感動的でしたが、早くも来年2017年の総会・懇親会のアトラクションが決定しまして話題になっています。

我らが同窓生から今年、シンガーソングライターとして見事にメジャーデビューを果たした古澤剛さん(平14年卒)が、来年の関東同窓会で凱旋ライブを行います。

古澤さんは、現在33歳。双城中学校から竹田高校に進み、吹奏楽部に入部、ギターでオリジナルソングを作曲、高校3年生の時に「高校生ロック選手

権」でグランプリを受賞しました。卒業後、福岡で学校に通いながらライブハウスなどで活動、25歳で上京しました。都内でライブ活動を始め、これまで2枚のアルバムをリリース。今年「仲間だろ」が、ラグビーの五郎丸選手らが出演するテレビのCMソングに起用され、話題になりました。

ついに今年9月28日「COLOR」でメジャーデビュー。大分合同新聞でも取り上げられ「聴く人の耳に、心に、ストレートに届くバラードナンバー」と紹介されました。

現在、(株)ロックオンカンパニー(太田代表)に所属、ライブや「歌ワゴン、日本全国仲間だろ」で全国を回り活動の幅を広げています。

また、復興支援のために各地を訪れ、被災者の方々に歌で元気を届ける活動にも積極的です。その活動ぶりは「若き吟遊詩人」と評しても過言では



ライブ後の楽屋で古澤さん(左から2人目)と、来年の総会・懇親会の当番幹事の左から右田淳子さん、鈴木敬子さん、飯田良典さん(いずれも昭51年卒)、後方は関東同窓会の加藤典史副会長

ありません。

去る11月5日、その古澤さんのライブを下北沢で体験してきました。会場は満員、声量ある歌声で我々を魅了してくれました。演奏後の楽屋でのあいさつで、彼も多くの同窓生と会えるのを楽しみにしているとの事です。我々も「同窓生は仲間やろ」と、古澤さんを応援しましょう!!



熱唱する古澤剛さん



記念すべきメジャーデビューCD「Color」

## 編集後記

関東同窓会の30周年記念となる総会・懇親会を盛大に、そして無事に終えることができました。支えてくださった役員・学年幹事、そして当番幹事の昭50年・60年卒の皆さんに心より御礼を申し上げます。音楽劇という従来のにはないアトラクションで圧倒的な感動を巻き起こしました。早くも「こんな盛大なことになった、来年からどうする?」とい

う気の早い心配の声が聞こえたほどでした。そんな心配をよそに、来年のアトラクションが早くも決まったと当番幹事さんたちから速報が届きました。今年、見事にメジャー・デビューを果たしたシンガーソングライターの古澤剛さんが凱旋ライブを披露してくださるという嬉しいお知らせです。平成14年卒の33歳という若い同窓生の活躍です。来年の総会・懇親会は若い世代に積極的に呼び掛けて、関東の新しい時代を盛り上げていきたいものです。

## 連絡先

〒181-0003

東京都三鷹市北野2-3-22

(広報委員長) 衛藤 淳 宛

TEL 090-9159-7231

FAX 0422-43-7762

mail to : etoj@hotmail.com

## 訃報

慎んでお知らせ申し上げます。心からご冥福をお祈り致します。

## 物故者御芳名

菅 圭三 様(昭27年卒)  
平成28年2月18日没

工藤 謙知 様(昭27年卒)  
平成28年6月26日没

吉川 恵啓 様(昭30年卒)  
平成27年12月3日没

橋本 正治 様(昭30年卒)  
平成27年12月18日没

落合 淑 様(昭37年卒)  
平成27年12月24日没

河野 忠可 様(昭37年卒)  
平成28年2月24日没

尾下佳代子 様(昭42年卒)  
平成27年6月1日没

※事務局へ連絡をいただいた方々を掲載させていただきます。

## 【お詫びと訂正】

本会報誌「臥牛」第51号(2016年4月発行号)に掲載した訃報に、ご氏名表記において誤りがありました。深くお詫びし訂正させていただきます。

工藤 雄司 様(昭34年卒)  
平成27年1月29日没